ASCP International 挑戦の効果

◎坂本 秀生 [1)]
学校法人 神戸常盤大学 [1)]

臨床検査でのグローバル化：日本の臨床検査技師はグローバル的にみても、業務範囲が多く知識や技術は欧米と遜色無いく、日本の臨床検査技師にグローバル的な視点が加われば、日本の臨床検査はさらに発展すると演者考えている。そこで、臨床検査技師が個人で行えるグローバル化のツールとして推奨したいのが、ASCP International への挑戦である。

アメリカでの臨床検査：アメリカでは各種免許を州単位で発行するが、臨床検査技師免許が必要な州は 2 割程であり、州試験がない州ではアメリカ政府の基準を満たした非営利団体である American Society for Clinical Pathology (ASCP) 、American Medical Technologies (AMT)、American Association of Bioanalysis (AAB)等が発行の認定資格が求められる。いずれの団体でも受験要件はアメリカで臨床検査教育を履修済みが条件である。したがって、州試験制度が無い州では三団体何れかの認定資格が事実上の臨床検査技師免許と判断される。

American Society for Clinical Pathology (ASCP)：上記三団体の中で ASCP が最も歴史が古く取得者が圧倒的に多いことに加え、州免許制度があるカリフォリニア州・ニューヨーク州では手続きを行えば州免許と同等の扱いになる事から、ASCP はアメリカにおいて臨床検査技師認定資格の標準となっている。
ASCP が発行する認定資格は大きく２つあり、短期大学士または準学士の保持者は Technician 資格、学士号保持者は Technologist 資格を受験可能である。上級資格として Technologist 資格を取得後、特定分野にて規定以上の業務経験が有る者には Specialist 資格の受験資格もある。いずれの資格も特定分野の業務経験・学士以上の学位で複数の受験ルートを設けていることも日本と異なる。

ASCP International (ASCP^{i})：ASCP の受験資格はアメリカで教育が必要となるが、ASCP^{i} はアメリカ外で教育を受けも、履修内容がアメリカと等しい者に受験資格を与え、2006 年に最初の合格者が誕生した。当時に受験可能な国はフィリピン共和国と韓国のみであったが、2009 年に日本も受験可能となるなど、受験可能な国は毎年増え続け、2023 年 12 月末時点で 130 カ国となり、合格者は 2 万 2 千人を超え、日本からも 38 名の合格者が誕生している。
ASCP^{i} も ASCP と同様に Technician、Technologist、Specialist がある。ASCP^{i} ではアメリカ固有の法律に関する出題されないが、専門分野は同難易度で出題されることから、ASCP^{i} 資格試験合格者の知識レベルは ASCP と同等である証と見なされる。
ASCP^{i} 合格者の知識レベルは ASCP 合格者と等しいことから、臨床検査技師の州免許制度が無い州であれば、ASCP^{i} 資格保持者は臨床検査技師として就労可能な実益的な資格でもある。また、カリフォルニア州とニューヨーク州では ASCP^{i} 資格保持者は手続きを行えば、それぞれの州免許と同等な扱いになり、臨床検査技師として勤務可能である。日本からはまだ少数だが、他国からは大勢の方が ASCP^{i} 資格を活かし、臨床検査技師として勤務されている。

さいごに：ASCP^{i} への挑戦は臨床検査分野の専門知識を英語で理解できるだけでなく、ASCP^{i} を就労条件と認めるアメリカで約８割強の州、UAE 等の国でも勤務可能な実益的価値もある。
当日は ASCP^{i} 資格合格者、アメリカ研修経験者、ASCP シカゴ本部から資格責任者も登壇されるので、本シンポジウムを通しグローバルに活躍するきっかけにして頂ければ幸いである。

連絡先- 078-611-1821